

事業のタネシート

活動地域・団体名： 株式会社アースカラー

事業名称 1： デジタル地域通貨でのベーシックインカム配賦システム「七福神」
～「第2の公」となる脱炭素 x 地域自治モデルの創出～

あらすじ

現状の市場経済では評価しきれない岩手県独自の地域自然環境や地域社会に対する貢献価値を拾い上げ、地域通貨にてベーシックインカムとして社会価値・環境価値を提供する事業者へ収入補填し、地域にグローバル市場経済とは別の独自経済圏を構築する。決してどちらか一方の経済圏だけに依存するのではなく、バランス良く両輪を回すことが地域の自立自となり、過疎農山漁村を再生する汎用性の高い処方箋となる。そして、それすなわち現在のグローバル資本主義一辺倒の社会経済を修正するモデルとしたい。

ストーリー

(課題) 人口減少に歯止めがかからず地域活力が低下している。
(取組) 岩手県独自の地域の自然環境や地域社会に対する貢献に対して価値を付加する新しい仕組みを生み出し、事業者のためのベーシックインカムを提供する。事業者の取組みを評価し、可視化することにつながり、地域通貨で提供することで経済の地域内循環が実現する。地域通貨では地域での再生可能エネルギーを購入できるスキームを構築する。
(ありたい姿) 事業者が報われる経済システムによって地域に活力が生まれ、内外に地域の魅力を再評価・再発信することになる。地域の中で社会価値、環境価値の高い事業が生み出され、移住者や企業者が増え、過疎化する農山漁村の再生モデルとして注目される。

| 事業の骨子 | | 現時点で想定される課題・ボトルネック |
|------------------------|--|---|
| ①ありたい未来 | 社会価値、環境価値の高い事業者が地域に無数に生まれ、繁栄する。地域経済が活性化し、移住者や起業者が増え、子供も増える。 | ・初期開発費用の捻出 ・Jクレジットにおける新たな地域経営脱炭素量計算システム、可能かどうか？ ・再生可能エネルギーの購入スキームを構築できるかどうか |
| ②課題 | 地域活力の低下、過疎化。事業者減少 | |
| ③なぜこの事業をやるのか (Why) | 会計帳簿に表れない社会価値、環境価値を提供している事業者が報われる経済システムを作り、地域の持続可能性を求めた事業者連合を作りたい。 | |
| ④地域資源 | 志のある事業者さんたち。 | |
| ⑤商品・サービスの具体的な内容 (What) | デジタル地域通貨。基準に沿ったベーシックインカムの提供 | |
| ⑥担い手 (Who) | 地域のコアメンバーとともに構築する団体 | 課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像 |
| ⑦事業で生じる循環 | あらゆる地域資源が地域通貨を使用することで地域内循環することとなる。「漏れバケツ」をふさぐことになる。 | Jクレジットにおける本取組みの脱炭素量などを計算してシステムに組み込める能力を持つ人材、システム開発を行える人材、資金調達を得意とする人材 |
| ⑧事業で生じる成果 | 社会価値、環境価値の高い事業者が地域に無数に生まれ、地域経済が活性化し、移住者や起業者が増え、子供も増える。 | |

| 事業名称2： 海藻を活用した普代版循環農業 | | |
|---|---|--|
| あらすじ | | |
| 普代村の名産である、昆布やわかめをミネラル肥料とした循環農業（畑や田んぼ）を行い、生産品を普代特産農産物とする。 | | |
| ストーリー | | |
| <p>（課題）毎年春先に収穫される昆布やわかめの端材が大量に廃棄されており、廃棄には高額な経費がかかる。普代村茂市地区では農地がまとまってあるが担い手不足により耕作放棄地が増え、道の駅では野菜などの生鮮品が不足している。</p> <p>（取組）普代村の名産である昆布やわかめをミネラル肥料とした循環型農業に取り組み、普代村特産農産物を栽培、販売する。</p> <p>（ありたい姿）廃棄される地域の資源を活用する普代村のブランド農業を立ち上げ、耕作放棄地を減らし、循環型農業に関心ある若者が担い手として定住する。</p> | | |
| 事業の骨子 | | 現時点で想定される課題・ボトルネック |
| ①ありたい未来 | 普代村の海と山、農地の資源が循環再生産されている未来 | ビニールハウスが必要。空いているビニールハウスはたくさんあるが借りられるかどうか |
| ②課題 | 寒冷地であるため、ビニールハウスなど、保温施設が必要 | |
| ③なぜこの事業をやるのか（Why） | 地場農産物のブランド化による農業振興と廃棄水産物の域内循環を図る | |
| ④地域資源 | 昆布・わかめなど捨てられている海藻端材 耕作放棄地 | |
| ⑤商品・サービスの具体的な内容（What） | 海藻農法を活用したお米、大豆・小麦、野菜、六次加工品など。村外へ販売しつつ、地域通貨の交換品としても用意する。 | |
| ⑥担い手（Who） | アースカラーで採用する予定の地域おこし協力隊やアースカラー社員が中心となり事業を起こし、農業法人を起こす。 | 課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像 |
| ⑦事業で生じる循環 | 海での廃棄物が陸で再利用される。そしてそれが道の駅で販売され、地域の人々が購入する。 | 普代村役場と連携して借りる。 |
| ⑧事業で生じる成果 | 地域の食料自給率が上がる。耕作放棄地が減る。農業の担い手が増える。 | |

| 事業名称3： 地域材を活用したコミュニティスペース事業 | | |
|--|--|--|
| あらすじ | | |
| <p>普代村の商店街の空き地に、板倉構法での8坪程度の建物を立て、普代村で増加する地域おこし協力隊が使用するシェアオフィスの一つとして提供する。</p> | | |
| ストーリー | | |
| <p>地球のしごと大学で取り扱っている板倉建築による伝統構法での小屋づくりの技術を生かして、地域に地産木材を利用し、できるだけ地産の材料を使った建築を普及し、山林資源の地域循環を促したい。普代村の中心地に建てることにより、板倉構法、草屋根による地産材での建築物がショールームにもなり、PRしていく発信地となる。将来的には、デジタル地域通貨のチャージ機なども置いて、地域循環共生圏システムの広報発信地としても機能させたい。</p> | | |
| 事業の骨子 | | 現時点で想定される課題・ボトルネック |
| ①ありたい未来 | 地域に伝統構法にて地産材を使った建築があふれるようになる未来 | <p>建築にかかる費用として、400－500万円を想定している。地球のしごと大学の「伝統構法建築学部」東北校として建築自体をワークショップとすることで建築費用を低減する。また、建築資材は一部確保している。</p> <p>建築用地の確保。</p> <p>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</p> <p>借入を起すため、銀行など。地主さん、普代村商店街の皆さん</p> |
| ②課題 | 初期建築費用。 | |
| ③なぜこの事業をやるのか（Why） | 地域おこし協力隊が増えてきており、オフィスが不足している。地域の建築に地産材が使われるようにしたい。 | |
| ④地域資源 | 栗・ナラ・松など岩手の木材 | |
| ⑤商品・サービスの具体的な内容（What） | 地域おこし協力隊が利用するオフィス機能（デスク、コピー機など） | |
| ⑥担い手（Who） | 地域おこし協力隊が管理運営を実施する。 | |
| ⑦事業で生じる循環 | 建設に伴い、伝統構法の建築ワークショップを行うことで地域の大工さんの養成につながる第一歩となる。そして地域産材を使用した建築が普及する。 | |
| ⑧事業で生じる成果 | 地産材の利用促進。地域おこし協力隊（移住者）の増加 | |